

全国農政連推薦・県農政連公認  
参議院議員藤木しんやの

## 永田町でも「百姓宣言」

### 「農政の大きな転換期」

#### 【全国のパワーを結集】

1月24日に第68回J A全国女性大会「J A女性想いをひとつにかなえよう」の2月21日に第69回J A全国青年大会「未来を彩る花となれ！5万盟友、ピンチの今こそ最大のチャンス」が開催され、3年ぶりの実開催(オンライン併用)となった会場には全国各地より多くの女性部・青年部の皆さまが東京に集結されました。徐々に対面の活動が再開されたことにより、活気溢れる発表や盛り沢山のイベントが行われていました。私は公務のため会場に駆けつけ、ことが出来ませんでした。全国から選ばれました各組織の活動報告を受け、大きなパワーを感じました。

#### 【着実な輸出の拡大】

農林水産物・食品の輸出は、令和7年2兆円目標の前倒し達成を政府が掲げています。令和4年の輸出額は、前年比14・3パーセント増加の1兆4148億円となり、10年連続で過去最高額を更新しました。好調な輸出は生産者・食品加工業者・販売業者など関係する全ての皆さまの努力の成果の表れです。

国内市場規模は、人口減少や高齢化に伴い縮小する方向ですが、世界の農産物マーケットは人口の増加に伴い、拡大する可能性があります。国内外のマー

ケットの変化に鑑みれば、農林水産業の生産基盤を強化し、農林水産物・食品の輸出促進により世界の食市場を獲得していくことが重要となります。

#### 【食品産業の持続可能な発展】

先日、私の母校である熊本農業高校を訪ね、第10回食品産業もつたいない大賞で農林水産省大臣官房長賞を受賞された畜産科(養豚プロジェクト)生徒の皆さんに賞状を授けました。

養豚業によるゼロエミッションへの挑戦として、加工処理段階で廃棄される豚脂を利用し、洗濯用石鹸として開発・販売するという取り組みでした。学業以外の時間を活用して、授業での知識や地域の関係機関と協力し商品開発まで行ったことは大変素晴らしい功績でありました。



▲もつたいない大賞で農林水産省大臣官房長賞を受賞された母校熊本農業高校の生徒さんと

全国・県農政連推薦  
参議院議員山田としおの

## 農政問題に斬り込む

### 未来が輝く農業へ

ロシアのウクライナ侵攻や円安の影響で、肥料・飼料・燃油、輸入農産物、電気料金、食料品の値上げなど、農業生産はもとより日常生活すら先行きが見通せない状況です。その中で食料は、国内資源の活用による生産の向上が求められています。なんとしてもこの厳しい情勢から脱却し、誇りある営農を次世代につなぐことができるようにしなければなりません。そのためには、国内の農業の将来を、どう作り上げていくかを議論する必要があります。水田農業のこと、畜産酪農のこと、畑作のことなど丁寧に考えなければなりません。

そこでポイントになるのが、いかに担い手を明確にするかということ。水田農業はその機能を最大限活用して、自給率向上に貢献できる麦・大豆・飼料など、多様な生産をする。畜産酪農は輸出も含めて多様なニーズに対応し、各国との競争に勝つていく。これまで狭い国土で蓄積してきた、知恵を発揮できる担い手を支援していく必要があるのです。

また私は、家族経営農家や集落営農、法人経営といった多様な担い手が

いる農業の将来像を描いています。そうした地域に適した生産をする担い手を、国民全体でしっかり支えるのです。その結果、地域が一体となって、高品質でおいしいものが安定供給されるのだと思います。日本は中山間地が多いですが、各地域に適した素晴らしい農業生産を支援したいと思います。

さらに農畜産物の再生産可能な価格づくりに向けては、安定供給と自給率向上が可能となるように、担い手への経営安定対策が必要になります。世の中は、もし食料が不足したら輸入すればよい、との考えで国内生産を軽視しています。もつと安全・安心・安定供給の観点から、生活の根底にある食料について考えるべきです。コメの生産調整の仕組みも、酪農の指定団体制度も、見直しによって需給調整が難しくなっています。こうした指定団体の機能を弱めるような見直しはあってはならないことだと感じています。



▲専門誌インタビューにて